

## 第4回 文理融合シンポジウム

# 量子ビームで歴史を探る —加速器が紡ぐ文理融合の地平—

文化財をはじめとする人文科学資料研究への活用が期待される「負ミュオンを用いた新たな非破壊研究手法」の実用が、今、日本の研究グループによって精力的に推進されております。高エネルギー加速器研究機構・物質構造科学研究所では、茨城県東海村にある J-PARC MLF ミュオン施設 (MUSE) で世界最高強度のパルス負ミュオンビームを用いた分析が進められており、また、大阪大学核物理研究センター (RCNP) でも、連続負ミュオンビームによる非破壊分析が活発に実施されています。

これまで放射光や中性子などを用いて、様々な文化財科学の研究が行われておりますが、さらにミュオンも加えて、量子ビームを利用する文化財研究の第一人者が一堂に会して、これまでの考古学研究、並びに関連研究、更に分析技術を紹介し、文理融合研究の可能性を探る本シンポジウムを開催します。全国の大学・博物館・研究所等の人文科学系の研究者と自然科学系の研究者とのネットワークの形成に向けて、新たな文理融合プラットフォームを構築する一助となる事を期待しています。

このたび、第4回シンポジウムも、皆様の健康や安全面を第一とするため、オンライン方式とすることに致しました。今回は、以下の先生方の招待講演を予定しております。

- ・「アップデートする炭素 14 年代法」坂本稔氏 (国立歴史民俗博物館)
- ・「放射光によるエジプトやメソポタミアのガラスの測定、放射光 X 線吸収差分法で絵画の透過 X 線イメージング」阿部善也氏 (東京電機大学)
- ・「負ミュオンによる丁銀の深さ方向分析」齋藤努氏 (国立歴史民俗博物館)
- ・「日本列島最古の文字とミュオン分析の展望」南健太郎氏 (岡山大埋蔵文化財調査研究センター)
- ・「負ミュオン寿命測定法による炭素濃度の測定結果」久保謙哉氏 (国際基督教大学)

また、今回は、「Muon 科学研究会」と連続する日程で合同での開催といたします。皆様のご参加をお待ちしております。

世話人代表 三宅康博、下村浩一郎 (KEK 物構研)

2021 年

1/28<sub>木</sub> - 29<sub>金</sub>

オンライン開催

参加費：無料

参加申し込み・  
プログラム等  
詳細は WEB を  
ご覧ください。



<https://www2.kek.jp/imss/msl/2020/12/4.html>

お問い合わせ

高エネルギー加速器研究機構 物質構造科学研究所  
三宅 康博

E-mail : [bunri\\_yugo@ml.post.kek.jp](mailto:bunri_yugo@ml.post.kek.jp)

主催：高エネルギー加速器研究機構 物質構造科学研究所、  
共催：人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館、国立科学博物館

協催：日本中間子科学会、J-PARC センター、大阪大学核物理研究センター、  
SPring-8 ユーザ協同体 (SPRUC) 文化財研究会、  
新学術領域「宇宙観測検出器と量子ビームの出会い。新たな応用への架け橋。」  
異分野融合 (大阪大学)「新学術・産業応用を目指した次世代ミュオン分析拠点の形成」